

令和 3 年 5 月 21 日

武蔵野市地域自立支援協議会

今期の自立支援協議会の活動方針について（ご提案）

岩本 操

<はじめに>

前期の協議会テーマ「当事者とともに、当事者の声を市民に届け、誰もが暮らしやすい武蔵野市を目指す。」は、協議会の土台となる基本方針であり、この方針は今後も継承されるものと考えています。一方、協議会として、このテーマの実現に向けて着実に活動を進めていくためには、各期・各年度における活動目標やターゲットを明確に定めて、そのミッションを担うことが求められますが、その点が本協議会の課題だと思われます。

本協議会では、平成 30 年度より協議会のあり方や部会構成の見直しについて、ゆるやかではあるが協議を重ねてきました。令和 3 年度は、障害者総合支援法に基づく（自立支援）協議会の役割を改めて確認し、新たな協議会体制に基づく活動を始動したいと考えています。

<この間の協議会における検討課題>

① 平成 30 年度

今後の武蔵野市地域自立支援協議会（協議会全体／親会／親会と部会との関係）のあり方について、議論を深め次年度に向けて一定のビジョン（方向性）と具体的な活動案を提示する。

② 令和元年度

- ・ 専門部会におけるこれまでの活動内容は継承しつつ、一定の仕組みやツールができたものについては、部会主体の活動から他の機関や団体等への移行や協働を検討する。
- ・ 子どもにかかわる協議を行う場（小部会）を設ける。

③ 令和 2 年度

「障害者計画・第 6 期障害福祉計画」の策定、新型コロナウイルス感染症の影響も相まって協議会のあり方に関する協議は行わず、これまでの体制を継続する。

<現在の協議会体制・運営の課題>

- ・ 本来、（自立支援）協議会は、相談支援等から見えてきた「地域課題」を共有し、関係機関等、当事者・家族が連携して改善に向けた協議を行うとともに、地域の実情に応じた体制整備に取り組むものである。

【協議会の基本的な役割】

相談支援事業をはじめとする地域における障害者等への支援体制の整備に関し、中核的な役割を果たす定期的な協議の場として設置する。

（平成 24 年 3 月 30 日 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長 通知より）

協議会は、地域における障害者等の相談支援の個別事例等を通じて明らかになった地域の課題を共有し、その課題を踏まえて地域における障害者等の支援体制の整備につなげていく取

組を着実に進めていくことが重要である。

(平成 25 年 3 月 28 日 障害保健福祉部障害福祉課長 通知より)

- ・ 地域課題の改善に向けて取り組むためには、各部会に活動テーマや活動計画を丸投げしている状況は適切とは言えない。まずは、協議会（全体）として取り組むべき地域課題（ミッション）を定め、それぞれの課題に対応した専門部会を設定して、各専門部会が課題の改善に向けた協議・活動を担う形が望まれる。そのためには親会委員の部会における役割をもう少し明確にする必要がある。
- ・ 地域課題は多様であり、その時々で優先度も変わってくる。専門部会はさまざまな課題に応じて柔軟に変えていくことも必要である。協議会（親会）体制が 2 年 1 期であることを踏まえると、専門部会も 2 年を 1 つの区切りとして目標を設定して活動し、2 年ごとに専門部会の見直しを図ることも必要である。

部会に変幻自在に。個別の課題から紡ぎだされる課題を集積すれば部会となるし、課題が変われば部会を再編。重要なことはタイムリーな課題解決！

(厚生労働省資料：地域自立支援協議会組織図（イメージ）より)

- ・ 武蔵野市では協議会委員が障害者計画・障害福祉計画の策定委員を兼ね、政策に直接関与している点が大きな特徴である。また、計画策定から計画の推進主体及び評価を含む PDCA 機能を担うことが求められているが、その点が十分に機能できていない。
- ・ 計画の策定過程やパブリックコメントへの対応を検討する際に、いくつかの課題が浮き彫りになっており、そうした課題（地域課題）に取り組むことは協議会の中心的役割である。

障害者総合支援法

(協議会の設置)

第 8 9 条の 3 地方公共団体は、単独で又は共同して、障害者等への支援の体制の整備を図るため、関係機関、関係団体並びに障害者等及びその家族並びに障害者等の福祉、医療、教育又は雇用に関連する職務に従事する者その他の関係者（次項において「関係機関等」という。）により構成される協議会を置くように努めなければならない。

2 前項の協議会は、関係機関等が相互の連絡を図ることにより、地域における障害者等への支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うものとする。

(市町村障害福祉計画)

第 8 8 条の 8 市町村は、第八十九条の三第一項に規定する協議会（以下この項及び第八十九条第六項において「協議会」という。）を設置したときは、市町村障害福祉計画を定め、又は変更しようとする場合において、あらかじめ、協議会の意見を聴くよう努めなければならない。

＜障害者計画・第6期障害福祉計画において示された主な地域課題と協議会との関連＞

以下、①～④地域課題⇒計画の掲載箇所【該当ページ】

- ① 地域生活支援拠点の体制整備⇒計画：重点3【p36-38】，施策3（3）【p53】
- ② 精神障害者の地域移行支援の推進⇒計画：重点3【p36】，施策2（1）【p49】
- ③ 差別解消の推進（法律の存在、差別の定義や合理的配慮に関する認知度の向上など）
⇒計画：重点6【p41】，施策1（7）【p55】
- ④ with コロナにおける支援体制・方法の検討⇒計画：重点1【p32】，施策3（3）【p53】
⇒【岩本意見】

- ※ 上記の地域課題に対応した専門部会の設置を提案する。これまでの部会の活動をゼロにするわけではなく、「はたらく」「くらす」「相談支援」「権利擁護」といった大きな枠組みを具体的な切り口で再編するイメージ（部会のターゲット・ミッションを示す分かりやすいネーミングにする）。
- ※ 「障害当事者部会」は、現在の体制を継続して他の専門部会のミッションに代表者に参画していただくのが良いのか、特定のミッションを担っていただく方が良いのかは当事者部会の委員に確認したい。
- ※ 昨年度は、障害のある子どもの支援に関する協議の必要性が挙げられ、計画にも記載のある「障害児への包括的支援体制の強化」（特に教育との連携を含めた発達段階に応じた一貫した支援のあり方）に向けた部会の設置を検討した。一方、子どもに関する地域課題は障害福祉分野を超えたものであり、武蔵野市では「子育て世代包括支援センター」「児童発達支援センター」「教育支援センター」が連携した支援体制づくり、子どもの権利に関する有識者会議がスタートしている。本協議会が別立てで同様の課題を協議するよりも、子どもに関する既存の協議・活動の進捗状況を共有しつつ、必要に応じて協議会としての意見を示すのが妥当と思われる。
- ※ 上記と関連して、計画に示された課題のすべてを本協議会が担うわけではなく、市内の他の協議会・連絡会等との役割分担を整理する必要がある。また、協議会において他の協議会等との活動状況を共有する機会が必要である（計画のPDCA機能として）。
- ※ 先述のとおり、本協議会が担う地域課題への取り組みを2か年計画で進めて評価を行う。その結果を次期の計画策定に反映させる流れを作ってはどうか。また新たに優先的に取り組むべき課題が見えてきたら次はその専門部会を設置するイメージである。

＜今期の協議会の枠組み・方針：ご提案＞

●今期の協議会テーマ（活動方針）

当事者とともに多様な人々と協働して武蔵野市の地域課題に取り組む

●協議会の構成

（1）親会：協議会委員・事務局

- 年間5回程度の協議会開催，協議会全体のコーディネート（全体会、専門部会）

- 各専門部会の目標設定（部会のミッション、今期のタスクゴール）、進捗状況のモニタリング
- 障害者計画・第6期障害福祉計画推進のモニタリング
- 市内の関連協議会等の活動内容の共有（連携）、本協議会の役割の明確化

（2）専門部会

- 5つの専門部会を設置し、協議会で定めた目標に向けて計画を立て活動を進める。
- 専門部会の部会長（リーダー）は親会委員が担当する。

※上記をもとに今期の協議会・専門部会の構成案を考えました。

部会名（仮）	今期のミッション ※計画の該当箇所	担当委員
地域生活支援拠点部会	地域生活支援拠点の5つの機能について、地域課題に対応したネットワークの強化を図り、武蔵野市における拠点の仕組みを示す。 ※重点3【p36-38】，施策3（3）【p53】	○荒木委員 植村委員 佐藤律々子委員
地域移行部会	精神科病院に長期入院されている武蔵野市民の実態把握をもとに地域移行に向けた課題を精査し、関係者による協議のあり方を示す。 ※重点3【p36】，施策2（1）【p49】	○小原委員 岩本委員 栗原委員
差別解消部会	前期「くらす部会」の活動（関東バス武蔵野営業所への働きかけ）を継承し、一般事業所における障害の理解促進に向けたモデルを示す。 ※重点6【p41】，施策1（7）【p55】	○横山委員 久保田委員 番園委員
コロナ対応部会	with コロナにおける支援のあり方（直接支援における工夫や事業所間連携の実際など）について実践例を集約して提示する。（その成果を災害時における配慮等に活かす） ※重点1【p32】，施策3（3）【p53】	○三浦委員 佐藤清佳委員 佐藤資子委員
障害当事者部会	当事者の視点から武蔵野市の地域課題を提示する。他の専門部会の活動に部会の代表者が参画する。 計画にある「心のバリアフリー」ハンドブックの改訂（他にて作業）に協力する。 ※重点6【P41】、施策1（3）【P46】	○福本委員 安東委員 長谷川委員